

神長善次大使著「アジアのBCG—東洋の生き方を読みとる—」

三田出版会 1998年7月10日刊を読む

「アジアのBCG」とは何か

1. もうすぐ戦後55年となり、西暦2000年を迎えることとなります。21世紀という新しい世紀を目の前にして健康で前向きな日本の将来像に思いを馳せている方々多いことと思います。私もそのような思いを馳せる一人です。その一人として考えますのに、21世紀の希望像といっても過去の歴史を無視して闇雲に描けるものではありません。
2. 特に日本の戦後史の流れを見ますと、西側の文化・文明の影響をかなり受けてきた経験がある一方で、アジア的な価値観が、忘れ去られたか、掘り起こされなかった事情があります。ところが、実際アジアの3ヵ国<フィリピン、インド、インドネシア>に住んで、アジアを内側から観察し、また日本でアジアとの経済や文化交流の仕事に携わってみますと、なぜアジアの持つ素晴らしい価値観が戦後の50年におよぶ長い間、発掘され、耕作されてこなかったのか、実に不思議に思えてなりません。
3. しかもアジアの価値観は、物質文明化する傾向のある西側文化・文明の欠陥を補完して余りある内容のものであり、一般的かつ根本的に人間と自然の関係を融和的にとらえ、さらにその奥にあるものとの融合を図ろうとする深い哲学観に根ざしたものです。つまり宇宙や神、そして自然と人間のマクロ的な一体関係を打ち立てるものなのです。
21世紀が、20世紀から環境破壊や神なき人間中心主義の流れを引き継いでいくのであれば、なおさらのことアジアの価値観が見直されるべきだと思います。ましてや精神面の置き去りが青少年を中心とする社会問題の課題となっている日本にあっては、いっそう重要な意味をもっています。
4. このような価値観は、例えば生命と宇宙の融合を図る生命樹のデザインや、二者択一ではなく、二者の融合発展を目指す渦や陰陽の紋様美のなかにも、また、総合的な健康を目的とする「アーユルヴェーダ」医学の生き方とその処方や、ヒンドゥー、老荘、神道といった宗教のなかにも見いだすことができます。
5. 私は、こうしたアジアの価値観を美の面、思惟・思想の面、そして慈しむ心の面からとらえることにしました。その方法をとったのは、1つには、これらの3つの面はアジア文化・文明の基本を構成していると考えたからです。

6 . そして、もう1つの理由があります。戦後私たちは、早い時期から西側の文化・文明の BCG 接種を受けて西側文化・文明に対して陽転化しましたが、アジアの文化・文明については、その接種を怠り陰性反応のままでした。そこで、21 世紀を迎えるこの時期にアジアの BCG 接種をすべきではないか、と考えたからです。

7 . 願わくばアジアの美(B)、思(C)、そして慈(G)という接種の役割を果たし、みなさんがアジアの良さを理解されてアジアに強くなり、またアジアをリードすべき立場にある日本のアジア的要素が強化される(=アジア的要素への陽転化)ことを願っています。

[コメント]

アジアとは何か、アジアのアイデンティティとは何かをその本質を考えたとき、その「美意識」、「思惟」、「慈しみの心」であるとの神長大使の結論は、考えれば考えるほど説得力があるように思われる。

その各々の具体的な内容にまで深く立ち入った本書は、アジア的な価値観を示す素晴らしいテキスト(教科書)と確信する。

- 2009 年 6 月 21 日林明夫記 -